

ISEGB 2025 派遣学生 活動報告書

九州大学大学院システム生命科学府
システム生命科学専攻博士課程前期課程 1 年
大藤 心旅

2025 年 5 月 2 日・3 日に台湾の成功大学で開催された「International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2025 (ISEGB2025)」に、日本遺伝学会からの派遣学生として参加してきました。本シンポジウムには、さまざまな生物を対象に進化や分子生物学、バイオインフォマティクスに関連する研究を行っている研究者の方々が参加・発表されていました。AI や機械学習を用いた研究も多く見られ、進化・遺伝分野における最新のトレンドを直接学ぶことができる、非常に良い機会となりました。

私は「アオウミガメの集団形成過程の解明」と題して、1 日目に口頭発表を行いました。慣れない英語での発表だったため不安もありましたが、発表後の休憩時間やポスター発表の時間には、私の発表を覚えていて質問してくださった学生と意見交換をすることができました。また、ポスター発表の時間には、同世代の台湾の学生が行っている集団遺伝や分子進化に関する研究に触れ、解析方法について議論する機会も得られました。一方で、自身の英語力の不足から、思うように質問ができない場面もあり、今後はより一層、国際的な舞台を意識して研究に取り組む必要性を強く感じました。

学会終了後は、国立陽明交通大学の Wen-Ya Ko 先生にご案内いただき、台湾南部・屏東県にある「原住民族文化園區」を訪れ、台湾の先住民族の伝統的な文化や食事を体験することができました。日程の後半には、台北にある国立陽明交通大学を訪問し、短い時間でしたが、Wen-Ya 先生の研究室の学生の皆さんと楽しく交流することができました。

最後になりましたが、このような貴重な国際交流の機会を与えてくださった日本遺伝学会および ISEGB2025 関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。また、台湾をご案内いただいた Wen-Ya 先生とその研究室の学生の皆様にも、重ねて感謝申し上げます。台湾滞在中に得たすべての経験は、私にとって大きな刺激となりました。この刺激を糧に、今後の研究活動にもいっそう励んでまいりたいと思います。



ISEGB 2025 派遣学生 活動報告

総合研究大学院大学先導科学研究科
生命共生体進化学専攻 5 年一貫博士課程 4 年
知久彩楓

2025 年 5 月 2 日、3 日に台南の國立成功大学において開催された、International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics (ISEGB2025) に日本遺伝学会からの派遣学生として参加いたしました。本学会には、ヒトを含む多様な生物をバイオフィーマティクスを利用した解析などで、遺伝子の多型や適応を明らかにする研究をしている研究者や学生が参加していました。多くのポスター発表や、先生方や学生の口頭発表を聞くことができ、私にとって大変有意義な時間を過ごすことができました。

ISEGB2025 において、現在進めているヒト CYP1A2 の自然選択の検出に関する研究内容で 12 分の口頭発表と 3 分の質疑応答を行いました。「なぜ CYP1A2 を対象としたのか」という内容の質問をいただき、事前にこの質問に対しての回答を用意していなかったため少し動揺しましたが、なんとか英語で回答することができ、Presentation Award も獲得しました。この学会を通して以前よりも英語を用いて研究内容についての議論を行うことに対しての心理的な抵抗を減らすことができたので、引き続き海外の学会に積極的に参加し、英語でのコミュニケーション力の向上を図りたいと思います。

また、現地では國立陽明交通大学の Wen-Ya Ko 先生とその研究室の学生の皆様に、台湾の先住民族の文化について学ぶことができる台湾先住民族文化園區の案内、研究室への訪問、さらに、國立陽明交通大学の集団遺伝学の講義内において研究発表の時間も設けていただきました。今回の台湾派遣の機会を与えていただいた日本遺伝学会、ISEGB2025、そして快く訪問を受け入れていただいた Wen-Ya Ko 先生、その研究室の学生の皆様に深く御礼申し上げます。今後も研究活動が続けていくのはもちろん、台湾との交流も続けていきたいと考えております。

